

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|-----------------|-----------|------------|
| 事業所番号 | 2490100134 | | |
| 法人名 | 社会福祉法人アパティア福祉会 | | |
| 事業所名 | 認知症対応型共同生活介護ひなた | | |
| 所在地 | 桑名市長島町横満蔵568番地2 | | |
| 自己評価作成日 | 平成27年8月13日 | 評価結果市町提出日 | 平成27年9月30日 |

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaijokensaku.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kihon=true&JigvosvoCd=2490100134-00&PrefCd=24&VersionCd=022 |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|-------------------|--|--|
| 評価機関名 | 社会福祉法人 三重県社会福祉協議会 | | |
| 所在地 | 津市桜橋2丁目131 | | |
| 訪問調査日 | 平成 27 年 9 月 2 日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者の要望を尊重し、出来る限り速やかに対応することを心がけている。そのために、年間行事やユニット行事を充実させ、楽しみを増やしている。健康ケア教室を始め、地域の方が訪問していただける場所になるようにしている。リスクマネジメントに積極的に取り組み、対策はもとより再発防止、予防のため職員みんなが意見交換することが以前より増えている。残存能力を損なわないように、出来ることは行ってもらえるように見極める力をつけるように努力している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の法人は桑名市を拠点に、病院、特別養護老人ホーム、介護老人福祉施設、居宅介護サービスセンター、障害者支援施設等を多岐にわたり展開している。ISO9001を取得し、より良いサービスの提供に努めている。事業所は開設7年目を迎え、経験豊かな管理者の指導で職員が成長し、各ユニットの運営に努めている。理念や品質目標に沿って、利用者や家族の立場に立った支援が実践されており、利用者、家族等からの信頼を得ている。利用者と職員がソファに座ってテレビを観たり、楽しそうに会話をしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|----|--|----|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|--|--|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 法人の理念方針に基づく品質目標を提示し、いつでも確認できるようにしている。 | 法人理念「すべての人を尊重し共感を持って寄り添い支援する」に沿った事業所品質目標を毎年設定している。職員は情報共有ツールで常に確認しながら理念を共有し実践している。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 近くの神社に初詣に出かけ、秋祭りにも参加させていただいている。近隣のお店も交流の場として利用させていただき、「健康・ケア教室」を開催し、地域の皆さんとの交流の場としています。 | 近くの神社に初詣に出かけたり、秋祭りに参加している。ホール「かたらいの場」で「健康・ケア教室」を開催したり、週1回サロンを開催し理学療法士による体操、アコーディオン演奏、バルーンアート作り、傾聴ボランティアの受け入れ等を行っている。 | 利用者が地域社会の一員として生活を継続するために、日常的に事業所と地域の交流を図られることを期待します。 |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 相談や問い合わせの連絡に対して情報提供に努めている。見学にも応じている。品質目標として認知症に関するリーフレットを作成し、地域への配布を予定している。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 定期的開催している。 | 市地域介護課・地域包括支援センター職員、利用者代表、家族代表、住民代表(民生委員)、協力医院院長、市保健師等が出席し、年4回開催されている。現況報告後、意見交換が行われる。行事の様子等はスライド写真を使用して行う。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 研修の案内をいただいたり、こちらからは待機状況を報告したり、また、万一の際の事故報告などは迅速に行い、連携も行っている。 | 管理者が日頃から市担当者と連絡をとり意見や助言を貰い、協力関係を築くよう取り組んでいる。待機状況の報告や事故発生時の迅速な報告等を行い連携を図っている。研修会にも参加している。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 法人では人権委員会があり、そこで身体拘束についてのケアについて行っている。身体拘束に関するマニュアルもあり、今年度は、スピーチロックについて研修を行い、拘束廃止についての活動を行っている。 | 管理者、職員は法人の人権委員会の研修で身体拘束やスピーチロックの弊害について理解し、拘束をしないケアに努めている。身体拘束に関する独自のマニュアルを作成している。家族にも説明して周知に努めている。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 虐待防止は広義的に倫理研修においても触れられ、見過ごされることのないように努めている。 併設特養と一緒に委員会活動している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 成年後見人のいる利用者があり、定期的に話し合い、金銭面での処理の相談等を行っている。後見の必要性を感じたご利用者に案内を行ったことがある。成年後見制度についての研修も行ったことがある。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約の説明はいつも時間をかけて行い、納得していただいたうえで契約している。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 面会時に状況説明など話し合う時間を設けている。利用者の体調、健康問題等ではその都度連絡し、必要時には担当者会議も設けている。利用者は毎月実施し、反映させている。 | 面会時や運営推進会議・利用者会で、利用者・家族から意見や要望を聞いて運営に反映させている。利用者の体調・健康問題等は電話やメールで家族と密に連絡を取り、必要時には担当者会議を設けている。毎月の請求書郵送時に、写真や手紙を同封している。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 毎月ユニット会議、個人面談を実施し、必要な話題について話し合っている。人事考課規定による面談を年2回実施している。 | 職員の意見や提案は毎月のユニット会議や個別面談に聞いて話し合っている。日常の気づきは口頭やメールで共有し、職員が言い易い雰囲気作りが行われている。出された意見や提案は運営に反映させている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 人事考課規程に基づく面談を実施している。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 内外の各種研修制度、新人職員教育にプリセプター制度があり、ISOに基づき検証まで行っている。資格取得は推進しており応援対策も実施している。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 外部研修などを通じて学習し、同業者と話題を共有している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 各職員が担当利用者を持っており、アセスメントを実施し、ケアプランを作成している。利用者のニーズを把握し、出来る限り利用者の意思を尊重するように対応している。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 入所当初は、様子観察を細かく家族に報告し、安心してもらっている。また、家族から得られる情報をご利用者に活かし、ご利用者にも安心してもらっている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 入所前や直後の状況により、医療や人権擁護のような他のサービスが必要な時は、その対応に心がけている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 食器洗い、洗濯物をたたむことなど利用者の体調確認をして、できることを共に行っている。利用者に役割を持ってもらい生活に生きがいを感じてもらい、そして、職員は感謝の心を忘れないようにしている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 各担当職員が中心となって連絡を家族にし、連携している。受診が必要な時は家族と施設が協力して受診援助を行っている。不安を訴える利用者には家族に話を聞いてもらったりして共に支え合っている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 家族や友人が訪問してくることは積極的に歓迎している。入所前から続けてきた毎月のお宮参りや、地元の祭り、地域の行事、花火を見に行くなどの習慣を大切にしている。 | 毎月の神社参り、行きつけの美容院への送迎等、家族の協力も得ながらそれぞれの希望に沿って、馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援を行っている。家族や友人が訪問しやすい雰囲気づくりに努めている。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 日常的な会話が楽しめること、貼り絵、パズル、食事作り、外出など共同で取り組むことを大事にしている。食事の時や普段くつろぐ場所も関係がうまくいくように座席配置等の配慮をしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 身体状況の変化、重度化により、併設特養へ入所されるご利用者があるが、面会に行ったり、引き続き家族と会話をしたり、情報交換をしている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | アセスメントにおいて、利用者の性格や背景などを把握し、各担当職員が中心になってコミュニケーションを取り、希望を聞きとっている。 | アセスメントで利用者の性格・背景を把握し、入居後、各担当職員が日々の支援の中で希望や意向を聞き把握している。支援記録や24時間シートを活用し、職員間で情報を共有し、利用者の意向に沿った支援の把握に努めている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入所前アセスメントで聞き取りを実施しているが、入所後もしっかりと本人や家族からの会話で馴染みの暮らし方の把握に努めている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 出来る限りご本人の意向にそった過ごし方を尊重している。 24時間シートや記録にて把握している。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 情報共有回覧で確認し、定期及び随時に担当者・ユニット会議を実施。介護計画に反映している。医師とも相談出来る体制をとり、プランは、必要時に追加や変更をし、必要な援助は指示出しを実施している。 | パソコンシステムを活用した実施記録等をもとに、担当者・ユニット会議でモニタリングを実施している。ケアプランの見直しは3カ月毎及び随時行われている。本人・家族・医師の意見を反映させて、現状に即した介護計画を作成している。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | プラン実施状況の記録は記録システム「ちょうじゅ」で管理し、日常の様子、気づき等は記録一覧に記録し、介護計画の見直しに役立てている。情報共有は「サイボウズ」にて情報共有している。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | ユニット独自の取り組みが行われてきている。協力医療機関や法人内の他の事業所の職員が応援してくれて、共同でイベントや園芸なども行い、楽しみを共有できるように取り組んでいる。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 近隣の病院、コンビニエンスストア、お寿司屋さん、饅頭屋さん、タクシー、シルバー人材センター、スーパーの宅配サービスなど関与する社会資源を把握してそれらが使えるようにしている。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | ご本人やご家族の希望にそって受診支援をしている。協力医療機関への受診が可能であるとともに、入所前からのかかりつけ医に継続して受診しているご利用者もいる。ご家族の協力を得ることができている。 | ほとんどの利用者が協力医療機関の受診であるが、1名が従来からのかかりつけ医を受診している。月2回協力医の往診、週1回歯科衛生士の訪問指導が行われている。夜間・緊急時も協力医の指示に従い対応している。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 日常的に協力医療機関に連絡をしている。緊急時などでは併設特養の看護師にも協力を依頼できる。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 診療情報や看護サマリーのやりとりや、入院先での説明・情報提供により、MSWとの連携を図っている。退院の見込みの立った場合は、必ず様子を見に行き、退院復帰がスムーズにできるように支援している。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 重度化対応指針を作成し、同意を得ている。終末期について、ご家族・医師・看護師などをまじえて納得がいくまで話し合いをし、対応方針を統一している。家族の協力も得ている。 | 入居時に本人・家族に重度化対応指針を示して同意を得る。「最後までみんなで見送る」を事業所の方針として、職員の研修や体制づくりを行い終末期には家族・医師・看護師等と連携を図りながらチームで看取り介護に取り組んでいる。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 急変や事故に備えては対応や連絡の手順を明らかにしている。管理者が医療関係者の助言を得て必要な指示をだし、動けるようにしている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 消防署と連携して消防訓練を実施している。風水害など現実を想定した取り組みをしないといけないことは認識しているが、大規模訓練は未実施である。 | 年2回、消防署と連携して昼・夜間想定消防訓練を実施しているが、風水害想定訓練は実施していない。大規模水害時における避難や救助等の備えの必要性について、今後の検討課題と認識している。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | ご利用者に対して尊敬の念を持って接するように努力している。相手の気持ちを考え、言葉かけで尊厳が守れるように、関わり方の注意事項を明確にしている。 | 名前は原則、苗字にさん付けで呼んでいる。食後下膳のタイミングは個々に合わせて行い食事をゆっくり楽しんでいただく、排泄支援時はプライバシーを損ねない声かけを行う等、利用者の人格を尊重する支援に努めている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 認知症に対して固定観念でとらえないように心掛けている。ご利用者中心と考え、希望や思いを表現できるように対応している。利用者会や食生活向上会議など利用者参加がある。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 起床時間、食事時間や入浴時間など、全員一定と考えるのではなく、一人一人の希望に合わせて支援している。毎日一緒ではなく、その日その日として対応している。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 衣類は基本的には好きなものを選択してもらい、それを尊重している。 自分の好みにあった衣類を着ていただいている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 定期的に食事作り、おやつ作りを職員と利用者と一緒にしている。園芸クラブの収穫を楽しみながら調理も行っている。普段の食事でも、出来ること(準備・後片付け)を出来るご利用者に手伝っていただいている。 | 食事は外注しているが、炊飯と味噌汁作り(朝食のみ)、盛り付けは職員が対応している。壁に献立と食事の時間が掲示されている。毎月食事作り行事を行っており、利用者が食べたい物を聞き取り、職員と一緒に作っている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 必要な栄養は計算されており、状態・体調に応じて食事形態も選択できる。箸やスプーン、茶碗も自分専用の物を用意しているご利用者もいる。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 歯磨き、義歯の洗浄は重要視している。 自立している方は口腔ケアに十分関われないところもあるが、定期的に歯科衛生士の協力を得て注意点や磨き方などの指導を受けている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 一人一人の排泄リズムを把握し、トイレ誘導で失禁が少なくなるように努めている。夜間中もトイレ誘導出来るご利用者は、トイレ誘導を行っている。パット等も状態に合わせて選んでいる。 | 排泄リズムを把握し適切に誘導することで、失禁を減らせるような支援を行っている。一人ひとりの状態に合わせた排泄介助・誘導を行い、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 水分補給の推奨、適度な運動、ラジオ体操などを働きかけているが、病気や体質、飲んでいる薬の影響等で、下剤服用を必要とする人もいる。飲みこみやすい物の採用やこまめな水分補給に心がけている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 基本的に、入浴日や入浴回数は決めていない。多くのご利用者は2日から3日で1回のペースで入浴している。個々の希望、タイミングに合わせての入浴に努めている。同性介助に努めている。 | 週2～3回、利用者の希望にそって対応している。拒否される方には対応を変えて入ってもらう。出来る限り同性介助に努めている。利用者の希望で入浴剤を使用する事もある。季節の柚子湯・菖蒲湯などを入れて、心地よく入れるように工夫している。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | ソファの設置、寝具類の清潔保持、温度調整を適切なものにするように配慮している。就寝時間は一人一人異なり、それぞれの生活リズムを尊重している。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 薬についての情報はファイル化されいつでも確認できる。服薬状況が変化した時は、記録を残している。薬管理は担当職員が行っている。保管場所、朝・昼・夕・眠剤の色分け表示などで誤りのないようにしている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 炊事場の入念な清掃、食器洗いをする人、野菜を育てて、調理して喜びを感じている人、音楽が好きでCD、カラオケ、合唱を楽しむ人、散歩、塗り絵、貼り絵など日々の生活に楽しみをもってもらっている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している | 利用者の意見を尊重し、実現可能な外出や散歩を増やしている。花見や花火鑑賞にも出かけている。ご家族の協力が必要な場合は、協力していただいている。 | 日常的には朝夕の散歩や、プランター菜園の水やりを行っている。利用者の意見を尊重し、買物や外食の希望があれば、可能な限り個別対応に努めている。家族の協力を得ながら外出できるように支援している。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 施設内でお金を使うことがほとんどなく、お金を持っている人は少ない。施設内の自販機でお気に入りのジュースを購入されたり、希望に応じて職員と一緒に買い物に出かけたりしている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 電話したい場合は、希望の要件を伺って施設から電話して本人に話してもらったり、自分で携帯電話を所有し使っている人もいる。手紙は届いた本人に渡し、返信の必要な場合は希望により代筆することもある。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 明るさは十分であり、騒音も特にない。温度調節は外気を取りいれたり、空調を利用したりと、その日にあった適正温度にしている。 毎月の季節感を出すための利用者の作った貼り絵カレンダーもあり、花を飾ったりもしている。 | リビング兼食堂の天井は高く明く、温度調節や換気が適切に行われており、清掃も行き届いている。居心地の良い空間になっている。各ユニットの入口に下駄箱が設置されていてスリッパに履き替えて入室したり、季節毎の貼り絵カレンダーを掲示する等して生活感や季節感を採り入れている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | ひなたを出たところに、かたらいの場というホールがあり、自由に過ごせるようにしている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 家で使用していた愛着のあるものをそのまま使用している人もいる。絨毯を敷いて和室のように使用されている方もいる。居室はご利用者が自分の意思で施錠できるようになっている。 | 各居室にベット、クローゼット、洗面台が設置されており、使い慣れた家具や椅子、仏壇等が持ち込まれている。床はクッション素材が使用され、換気・空調設備が完備されており、健康に配慮した居心地の良い部屋になっている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 明るい環境。居室の表札、トイレ表示、カレンダーは大きく表示してあります。、浴室・トイレの手すり、柔らかい床などで安全かつ自立した生活を送れることを目指している。 | | |